

都道府県別賞一等

ばあちゃんがくれたお守り

岩手県 奥州市立水沢中学校 二学年

齋藤 環

私が生まれた夏、ばあちゃんからのプレゼントは「生命保険」でした。

ばあちゃんは、困ったときに、「アッハッハッハ」と現われ、元気をくれて、そつと背中を押してくれる人です。どうして生命保険をくれたか聞いたとき、「待ちに待って生まれたたまちゃんが大切だからだよ。」

と、言ってくれました。服でもおもちゃでもない商品の生命保険が「お守り」だったと知ったのは、今年の夏休みでした。

保険について勉強し、火災保険や、自動車保険、生命保険など、たくさん種類があることや、どうして必要なのかを知りました。「保障」がこのお守りだったので。

保険金を受け取るには、保険料を支払わなければなりません。この保険料を十年間、毎月払い続けてくれたのが、ばあちゃんでした。そのことを知り、うれしさと、感謝の気持ちで、胸がジーンとしました。

人生には「あんな坂、こんな坂、まさか」があるそうです。まだ、十四年と短い人生ですが、私に來た最初のまさかは、三歳から始まった、入院生活でした。生活のリズムが変わってしまったそうです。十歳になるまで、くり返し、十数回の長い「まさか」がありました。病院生活では、みんなが優しく、治してくれました。私も小さかったので、生活がどうなっていたかや、お金のことも、今日になるまで知りませんでした。母の話から、あのとき、生命保険がなかったら、不安と苦しさでどうなっていたかわからないと聞きました。ばあちゃんのかくれた保険が、家族を守ってくれたのだと知りました。

今の私は、とても丈夫になって入院することはなくなりました。私を助けてくれたように保険料が、今、困っているだけかに使われ、救われていてほしいです。生命保険の仕組みを知り、あたりまえだった生活の見方が変わりました。来てほしくないけれど、もしも、「まさか」が来たときには、「アッハッハッハ、安心なさい！」と言い、家族を守る大人になれるように、目指したいと思います。